

教職の魅力創造プロジェクトに参加して

小笠原 空（山形大学地域教育文化学部児童教育コース4年）

教職の魅力創造プロジェクトでは、3つの事業が展開されており、私は2つの事業に関わらせていただきました。以下にそれぞれの感想を記したいと思います。

1. 「学びのフォーラム」について

「学びのフォーラム」では、高校生や大学生、社会人の方々が参加し、「わかり方」の探究というテキストを読みながら「できる」「考える」「遊ぶ」とはどういうことかについて探究していきます。私は、大学1年生から参加させていただいていますが、テーマは毎年変わらず一貫しているのですが、出てくる考えや考える視点が毎回違い、参加するたびに新たな発見や気づきが得られることが新鮮です。理論を中心に学んでいる大学生と、理論を実践する現職の先生と、学びを受け取る高校生という異なる立場の「学び手」が議論するからこそ、多角的な視点で捉えることができ、点と点が繋がって腑に落ちる瞬間が多々あります。それでも、「学びとは〇〇である」と一言で片付けられないところが奥深くて、最高に楽しい魅力の1つなのだと感じています。いくつになっても「よき学び手」でありたいと思います。

2. 「小学校教員体験セミナー」について

「小学校教員体験セミナー」では、高校生が小学校へ訪問し、働く教員の視点から授業を参観したり、休み時間に児童と関わったりすることができます。大学生は高校生をサポートする立場として関わります。多くの高校生は学校現場に入るのが初めてで最初は緊張している様子でしたが、子どもたちの明るさや元気に引っ張られながら楽しそうに活動している姿が印象的でした。また、授業参観や昼休みでの子ども達とのかかわり方を通して学ぶことが多く、子ども達が興味を持つことができるような授業の仕掛けや、子ども達の困り感に気づいて寄り添う教師の姿を見取っている高校生も沢山いました。それを、最後の振り返りの時に言葉にまとめられていたことにとっても感心しました。また、実際に学校現場に入り、子どもと触れあい共に学んだ経験から「教師になりたい」と力強く話してくれた高校生もいて、高校生の夢に一步近づくような素敵な機会でもあるなと感じました。そして、私自身にとっても教室の見方を授業者の立場からだけでなく、日々授業を受けている高校生からの視点でどのように捉えているのかに触れられる機会はとても貴重だと思います。